

2023年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52306	保育内容(環境) Child-care Contents (Environment)	福井千夏	✓	共通	1	必修	1年前期

科目の概要

この授業では保育者として求められる保育内容の領域「環境」を学ぶものである。子どもの成長発達を促す環境を探求し、子どもを取り巻く身近な環境（人・物・自然・社会・文化など）について理解する。指針、要領に示す領域「環境」のねらい・内容を視聴覚機器を活用しながら講義を通して基礎を学修する。さらに、野菜の栽培、自然観察、SDGsの取り組み等の具体的な指導方法を体験学習することで、生命の大切さや尊さに気づき保育者として子どもに伝える重要性を理解する。獲得した専門的知識・技術を活用し、保育実践に応用できるように学ぶ。★幼稚園教諭・保育士としての実務経験があり、環境を通じた保育の実践を活かした講義や実践的な演習を行う。

学修内容

到達目標

- | | |
|--|---|
| ① 領域「環境」とは何か、子どもにとって環境構成とはどのような意味があるのかを学修し指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。 | ① 保育における領域「環境」は子どもにとってどのような意味を成すのかを理解し、その指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることができるようになる。 |
| ② 幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「環境」のねらいと内容や指導上の留意点を理解する。 | ② 幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「環境」のねらいと内容や指導上の留意点を理解することができる。 |
| ③ 幼児の認識や思考・行動等を視野に入れた保育を構成するために自然観察や子どもとの関わりを通じた指導計画の作成、実践や視聴覚教材を使用した指導法等を身につける。 | ③ 幼児の認識や思考・行動等を視野に入れた保育を構成する方法を身につけるために、自然観察や子どもとの関わりを通じた指導計画作成、実践や視聴覚教材を使用した指導法等を修得する。 |
| ④ 幼児期の特性や各領域との関連性を考慮し、ねらい・内容を理解し総合的に保育を構想することができる。 | ④ 幼児期の発達の特性や各領域との関連性を考慮し、ねらい内容を理解し総合的に保育を構想することができるようになる。 |
| ⑤ 安全教育、近隣社会、小学校との関連性等を理解し、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現できるようにする。 | ⑤ 安全教育、近隣社会、小学校との関連性を理解し、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現できるように取り組むことができる。 |

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	環境に関心を持ち、積極的に授業に参加する。
	働きかけ力	
	実行力	畑の様子を気にかけて授業以外でも世話ができる。
考え抜く力	課題発見力	保育の環境に興味を持ち、保育内容に結び付け考えることができる。
	計画力	
	創造力	課題を実現できるように考え、保育実践に活かすことができる。
チームで働く力	発信力	自分の考えをまとめ、相手に理解しやすく伝えることができる。
	傾聴力	相手の考えを引き出し、要点をまとめることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：保育内容「環境」(第3版) 編者 秋田喜代美・増田時枝・安見克夫・箕輪潤子(株)みらい
参考文献：「幼稚園教育要領解説平成30年3月」「保育所保育指針解説書平成30年3月」「幼保連携型認定こども園保育教育要領平成30年3月」、保育所保育指針<平成29年告示>平成29年3月31日厚生労働省告示第117号他

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：保育内容総論、保育内容(健康)、保育内容(人間関係)、保育内容(表現)、保育内容(言葉)
資格との関連：幼稚園教諭2種・保育士資格 准学校心理士

学修上の助言

受講生とのルール

自分を取り巻くものはすべて環境と理解し、保育者になろうとする自覚を持ち、生活経験を広めるよう努力すること。身の回りにある伝統行事、家庭文化、生活習慣などに関心を持ち理解する。

テキストや指針や要領を必ず持参のこと
毎回演習を行うための準備を済ませ授業に臨むこと
授業以外でも自主的に観察や世話を進んで行う

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	0	①			
			②			
			③			
			④			
			⑤			
	平常評価	小テスト	30	①	✓	
				②	✓	
				③	✓	
				④	✓	
				⑤	✓	
		レポート	20	①		
				②		
				③	✓	
				④	✓	
				⑤		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	40	①	✓			
		②				
		③	✓			
		④	✓			
		⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓		
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>保育内容環境を理解し保育の内容を意識して構成する力を持ち、また、チームで積極的に栽培に取り組み、植物の生育に対する観察、考察等深め、保育者を意識した取組ができている点を総合評価し90点以上はS（秀）、89～80はA（優）とする。</p>	<p>作品、レポートなど課題の提出期限を守り、保育者を意識した取り組みができている点を総合評価し79～70はB（良）、69～60はC（可）とする。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 保育内容(環境)とは何かを考える	講義 演習(畑の見学) 本日の振り返りと質疑応答をフィードバックする。	授業の目的、内容、進め方について理解し今後の作業方法、身支度などの準備の仕方を理解できる 保育内容(環境)について理解できる	(予習) テキストのはじめを読んでおく	45	主体性
2	保育と環境について子どもにとっての「環境」の意味を理解する 発達にふさわしい環境の構成とは何かを学ぶ	前回の学びを質疑応答しフィードバックする。 講義 グループ討議「環境とは何を意味するのか」 本日の振り返りと質疑応答をフィードバックする。	子どもにとっての環境と日常で使われる環境との違いを理解し、子どもの発達にふさわしい環境の重要性を理解できる	(予習) テキストを読んでおく p10~19 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 発信力
3	領域「環境」のとらえ方と考え方を学ぶ。 子どもにとって魅力ある園環境の意味を考える。	前回の学びについて質疑応答しフィードバックする。 講義 グループ討議「子どもにとって魅力のある園環境とは何か」 演習(畝、マルチ) 本日の振り返りと質疑応答をフィードバックする。	子どもの発達にとってふさわしい環境とは何か子どもの発達の歴史や特性を踏まえながら、環境の構成について理解できる。	(予習) テキストを読んでおく p20~32 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 発信力
4	領域「環境」のねらいと内容について保育の基本を踏まえた領域「環境」を考える。(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から)	前回の学びについて質疑応答しフィードバックする。 講義 グループ討議「保育の基本を踏まえた環境とは」 本日の振り返りと質疑応答をフィードバックする。	幼稚園教育要領・保育所保育指針等における「環境」とは、新しい時代に向けた保育「環境」について理解できる。	(予習) 保育所保育指針等の「環境」のねらい・内容を読む。 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	植物に触れる環境構成① 子どもの発達を理解し子どもの姿を予想した指導案の作成をする。「さつま芋のつる挿し」の指導案作成	講義 グループ討議「指導案について」 本日の振り返りと指導案の解説をし、フィードバックする。	保育者は豊かな構想のもと、子どもたちの身近な環境を構成する役割を担う。自然環境に接するための工夫も欠かせないことを理解できる	(予習) テキストを読んでおく p20~32 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	遊びと環境構成② さつま芋の苗挿しを通して、幼稚園児との関わり方を学ぶ。 指導案に沿った保育を展開する。	演習(幼稚園児とさつま芋のつる挿し) レポート作成 本日の振り返りと質疑応答をフィードバックする。	園児とのかかわりの実践から環境構成の展開、再構成を理解できる。	(予習) テキストを読んでおく p38~41 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	人的環境としての保育者の意義を学ぶ。 子どもにとっての保育者の意味を多面的な視点から理解をする。	講義 グループ討議「人的環境とは」 演習(観察、水やり、除草) 本日の振り返りと質疑応答をフィードバックする。	人的環境としての保育者の意味を理解することができる。	(予習) テキストを読んでおく p42~52 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	物的環境としての園内、戸外の環境構成の意義を理解する。 乳幼児にとって魅力ある環境について、保育のねらい・内容と結び付けて理解する。	前回の学びについて質疑応答しフィードバックする。 講義 グループ討議「物的環境とは」 演習(観察、水やり、除草) 本日の振り返りと質疑応答をフィードバックする。	物的環境としての保育環境構成の意義を理解することができる。	(予習) 保育環境をどのように構成するかを考えておく (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	身近な動植物と関わる保育のための保育者の役割を学ぶ。動植物に親しみをもち、生命の尊さに気付くことができる具体的な保育環境の工夫を学ぶ。	前期の学びについて質疑応答しフィードバックする。 講義 グループ討議「身近な生き物に関する教材について」 演習(水やり、観察、除草) 本日の振り返りと質疑応答をしフィードバックする。	身近な動植物と関わる保育の必要性を理解することができる。 動植物に親しみをもち、生命の尊さに気付くことができる具体的な保育環境の工夫をすることができる。	(予習) 保育環境をどのように構成するかを考えておく (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	生き物や植物、自然の事象などに関心を持ち、自然環境について学ぶ。身近な生き物に触れる環境構成① 子どもの発達に合わせた生き物の表示作成をする。	前期の学びについて質疑応答しフィードバックする。 講義 グループワーク「生き物の表示作成」 本日の振り返りと質疑応答をしフィードバックする。	領域「環境」と自然環境の保育内容を結び付けて理解することができる。	(予習) テキストを読み動植物の関わり方の工夫について情報収集しておく p 89~91 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	生き物や植物、自然の事象などに関心を持ち、自然環境について学ぶ。身近な生き物に触れる環境構成② 子どもの発達に合わせた生き物の表示作成をする。	前期の学びについて質疑応答しフィードバックする。 講義 グループワーク「生き物の表示作成」 本日の振り返りと質疑応答をしフィードバックする。	子どもが夢中になることの意味を理解し、保育を考えることができる。	(予習) 身近な環境から保育を構想しておく。 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	生き物や植物、自然の事象などに関心を持ち、自然環境について学ぶ。身近な生き物に触れる環境構成③ プレゼンテーションの計画案を立てる。計画案に基づいて発表する。	演習(生き物表示のプレゼンテーション) グループ討議「発表についての講評」 本日の振り返りと発表の講評をしフィードバックする。	プレゼンテーションの計画を立案し、発表ができる。	(予習) 指導計画を構想しておく。 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 実行力 課題発見力 発信力 規律性
13	特別講師による講義 講師：岡崎市役所職員 自然環境と持続可能な社会を学ぶ。(SDGsと保育の関係) 持続可能な社会のための幼児期からの教育の必要性を理解する。	講義 グループ討議「保育とSDGsについて」 本日の振り返りと質疑応答をしフィードバックする。	持続可能な社会のための幼児期からの取り組みの必要性を理解できる。	(予習) テキストを読み持続可能な社会について基礎知識を得ておく。P95~100 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	子どもを守る安全な環境を学ぶ。視聴覚教材を利用し、事例から安全な環境について学ぶ。	前期の学びについて質疑応答しフィードバックする。 講義 グループ討議「安全教育についての指導法」 演習(観察、水やり、除草) 本日の振り返りと質疑応答をしフィードバックする。	安全教育の基本は、日々の遊びや生活・保育の中にあることを理解できる 教育要領や保育指針の中には安全な生活にかかわるねらいや内容が位置づけられていることを理解できる	(予習) テキストを読んでおく p 119~126 (復習) 観察記録ノート作成	45	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	保育と環境について知識を深め、保育者の役割の重要性を再認識する。	講義 グループ討議「今までの学びの振り返り」 演習(観察、水やり、除草) 15回の授業の振り返りを行い、解説を通してフィードバックする。	子どもにとっての「環境」と保育者の役割を理解することができる。	(予習) 教科書、配布資料を読み返しておく。 (復習) 15回の授業を振り返り、環境ノートにまとめておく。	45	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力